

新入生の皆さんへ



法学部長

橋本 基弘
はしもと もとひろ

みなさんご入学おめでとう。まず、みなさんが縁あって同じキャンパスで学ぶことに思いを馳せてみよう。生まれた場所も育った環境もまるで違う人々が中央大学法学部という学びの場所に参集している。これは偶然であり奇跡でもある。時のほからいにもまず感謝しようではないか。

中央大学は今年開学から125周年を迎える。この歴史は法学部の歴史でもある。125年前、神田錦町に集まった18人の若き法律家たちは日本を近代化するために英吉利法律学校を開校した。そこに全国から志を同じくする学生が集まってきた。中央大学はこのようにしてできた。中央大学は、カリスマ性を持った指導者が作ったわけでも国策から作られた大学でもない。日本の近代のために法律を教えたいという志を持った教師と、同じく日本の近代のために法律を学びたいという志

を持った学生が集まってできたのが中央大学であった。きつと125年前も今日の諸君と同じ光景が繰り広げられていたに違いない。

本学の学風を「家族的情味」と言い表すことがある。これは学問の前では先輩も後輩も教師も学生も同じ目線で向き合っているということでもある。諸君はこれから「学び合い、教え合う」学風に何度も気づくであろう。大学にDNAがあるとすると、この「学び合い、教え合う」学風こそ開学以来受け継がれてきた遺伝情報であると言える。

開学時の学生も教師もわが国の行く末を案じ、天下国家を論じていたのだろう。諸君も全力で物事を考えよう、自分とは違う立場の人々にも気持ち配ろう、今与えられた時間をいつか世の中のために用いるような気概を持つてではないか。法学部での学びが諸君にとつて有意義であることを祈る。

入学おめでとうございます



経済学部長

関野 満夫
せき の みつお

経済学部新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

これからみなさんは多摩キャンパスにおいて4年間の学生生活を過ごすこととなります。受験勉強を終えて、新しい生活に対する期待と不安が入り混じっている心境かと思いますが、どうぞ有意義なものにしてください。さしあたり入学間もない新緑の4、5月に、広い多摩キャンパスのあちこちを散歩するのも、いろいろ発見があつておもしろいかもかもしれません。

さて、経済学部では経済学および総合教養について体系的な授業カリキュラムを整えています。授業に出席して定期試験前に準備すれば、それ相応の成績と単位取得・卒業は可能でしょう。しかし、それだけでは

大学の価値は半分くらいしか利用していないことになりかねません。大学の勉強は、自分なりの問題関心を持つて主体的・積極的に取り組むことによつて、さらに楽しくかつ有意義なものになるのです。

そのためには、専門の勉強はもちろん、日常的に新聞や総合雑誌等に目を通して情報収集したり、読書を通じて幅広い教養や知識を身につけることも必要になります。大学の4年間、そのための貴重な「自由時間」ともいえるでしょう。

中央大学経済学部の教員はすべて経済学ないし社会科学や外国語等の専門研究者であり、授業やゼミ活動を通じて学生のみなさんとの学問上の交流を楽しみにしています。